



日本SPF豚協会

だより | 2018. 1
No.70

SPF養豚の生みの親のひとりであり、SPF豚農場認定委員会の委員長でもあった柏崎守先生が、10月11日に逝去なさいました。会員の皆様をはじめ、生前から先生と親交のあった関係者の方々とともに、心からご冥福をお祈りしたいと思います。

先生は昭和39年(1969年)、農水省家畜衛生試験場(当時)細菌第一研究室においてSPF豚の研究を開始されました。故波岡茂郎先生主導のもとで、SPF豚の作出、飼養技術、SPF状態の維持・管理に関する研究に精力的に取り組む一方、他の研究室で感染試験に使用するプライマリーSPF豚の作出や、そこで行われる試験・研究への協力にも力を惜しまれませんでした。先生はまた、そこで培われたSPF豚の技術を養豚生産現場に活用することにも意欲的で、応用技術の開発と普及・発展にも尽力されました。

SPF養豚の終局の目的は「健康な豚を飼育することによって、高品質の豚肉を効率よく生産する」ということであつたのですが、SPF豚の研究が始まった当時、SPF養豚に関する理解は未熟で、行政官庁、養豚業界、食肉業界、獣医師、飼料会社、薬品会社等に属する人々が、それぞれの立場から、SPF豚に対する期待感や批判、思惑などをもとにSPF養豚を論ずるようになっていたため、SPF養豚本来の目的が曖昧になっていました。そこで、波岡先生の提唱によって、SPF養豚の健全な発展を目指すことを目的に、昭和44年(1969年)に「日本SPF豚協会」が設立されました。そこで示された統一見解によって、SPF養豚に対する考え方の混乱は沈静化してきました。その間、先生はドイツ留学や本省(農水省)出向などがありましたが、家畜衛生試験場に復帰されてからは、日本SPF豚協会の法人化を念頭に置いた改革や、それにとりなう日本SPF豚研究会の分離独立などを主導されました。

SPF豚に関する研究が開始された当初から、先生は波岡先生とともに、SPF養豚関係者にとって、技術面においても、精神面においても大きな支えとなる存在でした。平成3年(1991年)、日本SPF豚協会をSPF豚の生産と普及をめざす生産者が所属する団体に特化し、SPF養豚関

追悼

柏崎 守先生

(2017年10月11日逝去)



連の研究や、その周辺技術の開発・普及などにかかわる部門を分離して、新たに「日本SPF豚研究会」が設立された際にも適切な指導と助言をいただき、初代研究会会長に就任されました。

研究会設立早々、協会は研究会に対し、「SPF豚農場認定制度の考え方」について諮問しました。先生は他の研究機関や行政分野、養豚関係者等から幅広く人材を集めて検討委員会を組織し、検討を重ねて「SPF豚農場認定基準制定に関する意見」に集約し、協会に回答いただきました。協会はこれをもとにSPF豚農場認定規則を制定し、平成6年(1994年)にSPF農場認定制度を発足させたのです。この制度の要であるSPF豚農場認定委員会の初代認定委員長には波岡先生、二代目委員長に柏崎先生が就任され、昨年、濱岡先生と交代されるまで、長きにわたってSPF豚農場認定制度の発展・強化に尽力いただきました。

先生は常に生産者の立場に立ってSPF養豚を考え、指導してこられました。研究者でありながら、生産現場の問題に精通し、農家や生産者の苦悩を理解し、代弁できる稀有の方でした。また、SPF豚農場認定制度の重要な柱のひとつである、農場毎の生産成績評価をベンチマーキングに活用することにも熱心でした。その効果は徐々に現れつつあります。

先生が亡くなられた今、協会の中心事業であるSPF豚農場認定制度に先生の足跡を重ねて合わせてみると、その功績は偉大です。先生の業績を穢すことなく、さらなる発展を目指すことこそが我々に残された責務ではないでしょうか。

一般社団法人日本SPF豚協会最高顧問 赤池 洋二